

# SDGs 未来都市プロジェクト

## メディカルヒルズ郡山基本構想2.0 ～「具体的な機能の考え方」～



郡山市

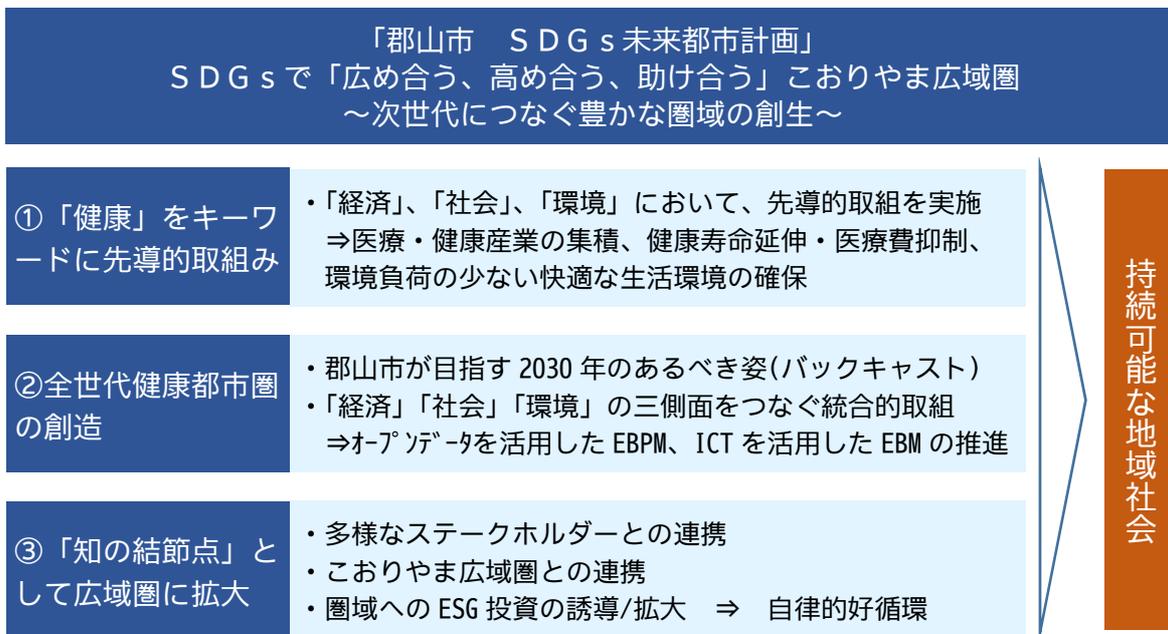
— 目 次 —

1. 「郡山市 SDGs 未来都市計画」と「メディカルヒルズ郡山基本構想2.0」	1
2. (仮称) メディカルヒルズ郡山基本構想 (概要)	3
3. 基本構想における具体的な機能の考え方<策定主旨>	5
(1) 地区の状況	5
(2) 本構想の位置付け	7
4. 計画区域に求められる機能の整理	9
(1) 上位、関連計画の整理	9
(2) 懇談会において検討した機能等	11
5. 基本構想2.0における具体的な機能の考え方	14

## 1. 「郡山市 SDGs 未来都市計画」と「メディカルヒルズ郡山基本構想 2.0」

### ◇「健康」をテーマとした持続可能な開発目標を掲げる SDGs 推進のまちづくり

郡山市は 2019 年 7 月 1 日に自治体による SDGs の達成に向けた優れた取り組みを行う都市として県内で初めて「SDGs 未来都市」に選定され、同年 8 月に「郡山市 SDGs 未来都市計画」を策定しました。



### ◇「健康」に関する国・県の動向

<p><b>【日本再興戦略 2016 官民戦略プロジェクト（国）：2016 年】</b> 健康産業の活性化と質の高い健康医療サービスによる「世界最先端の健康立国」を目指す</p> <p><b>【成長戦略実行計画（国）：2019 年】</b> 人生 100 年時代の安心基盤は「健康」であり、医療・介護については、全世代型社会保障の構築に向けた改革を進めていくことが必要</p>
<p><b>【健康立国の実現に向けた宣言（全国知事会）：2018 年】</b> 人々の生活の質（QOL）の向上を図りつつ、社会保障制度の持続可能性を高めるとともに、社会に活力をもたらす「健康立国」の実現に向けて、地方は「地方の責任」を果たす</p>
<p><b>【第二次健康ふくしま 21 計画（福島県）：2013 年（2019 年改定）】</b> 全国トップレベルの健康長寿県を目指す「健康寿命の延伸」と、県内地域間格差の縮小を目指す「健康格差の縮小」を基本目標の柱とし、生活習慣病の発症予防など、生活の質を向上させる取組とともに、東日本大震災及び原子力災害の影響に配慮した健康づくり体制の推進を展開する</p> <p>※健康長寿ふくしま会議：2019 年 「第二次健康ふくしま 21 計画」を推進するとともに、各専門分野の団体等が食・運動・社会参加に視点を置いた健康づくりに共働で取組むことで、全国に誇れる健康長寿県の実現に寄与することを目的に設置</p>

◇「郡山市 SDGs 未来都市計画」と「メディカルヒルズ郡山基本構想 2.0」との関係

「健康」をキーワードとして医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保等を目標とした持続可能なまちづくりに向けた先導的取り組みを実施する「郡山市 SDGs 未来都市計画」を推進するうえで、「メディカルヒルズ郡山基本構想 2.0」の推進は、国際競争力のある魅力的な産業振興を図り、「知の結節点」として持続可能な成長を目指す本市において、重要な役割を果たします。

【メディカルヒルズ郡山基本構想 2.0】



旧県農業試験場跡地を中心とする市街化調整区域（約 30ha）において、医療機器関連産業分野を中心とする新たな産業の集積拠点の形成を目指す

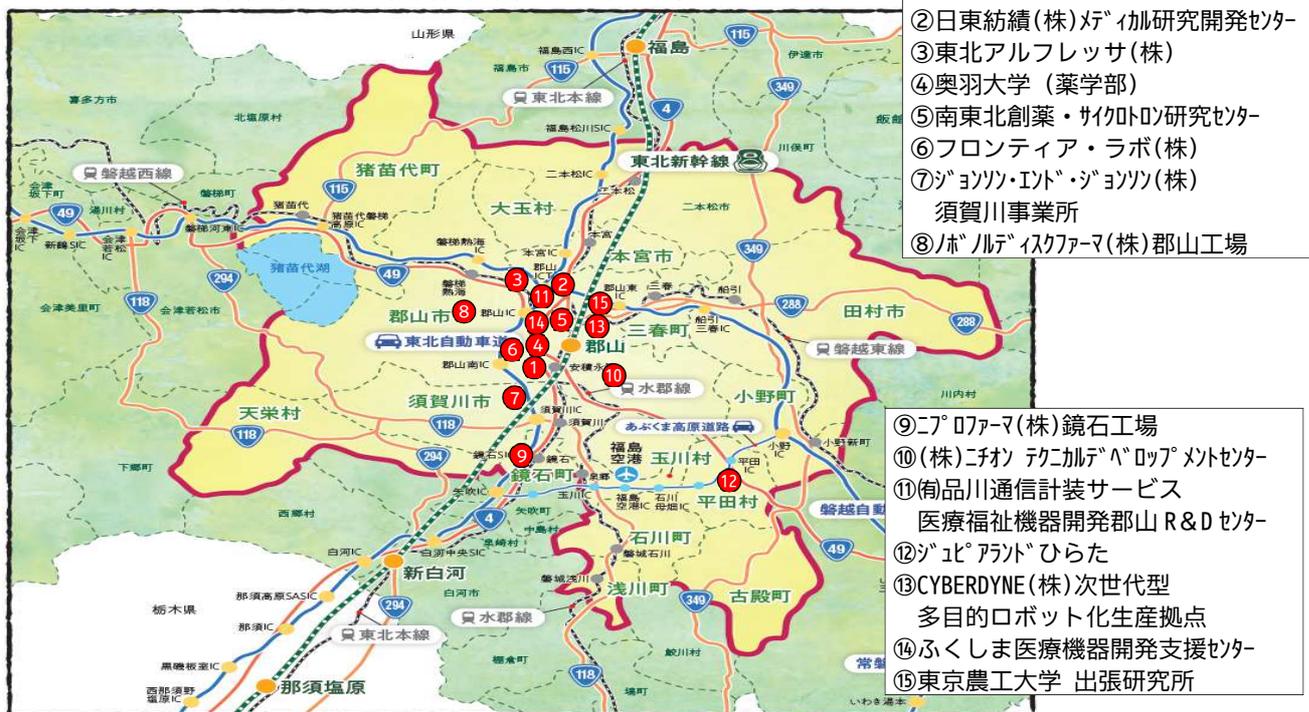
- ・ 事業経過：2015(H27)年度 （仮称）メディカルヒルズ郡山基本構想策定  
2016(H28)年度 郡山市医療機器関連産業集積懇談会設立  
以降、福島県等の関係機関との協議や懇談会において意見交換を実施

◇メディカル&メディシン産業の集積

本市を含むこおりやま広域連携中枢都市圏（以下、「こおりやま広域圏」とする）（16市町村※）は、医薬品、機械機器・部品、検査、診断装置などの産業医療福祉機器等に関する産業クラスターの形成が進展しているほか、医学と工学の結びつきによる「医療工学」分野の研究・技術開発が進められている。

※2019年10月18日 二本松市との連携協約締結により16市町村に拡大

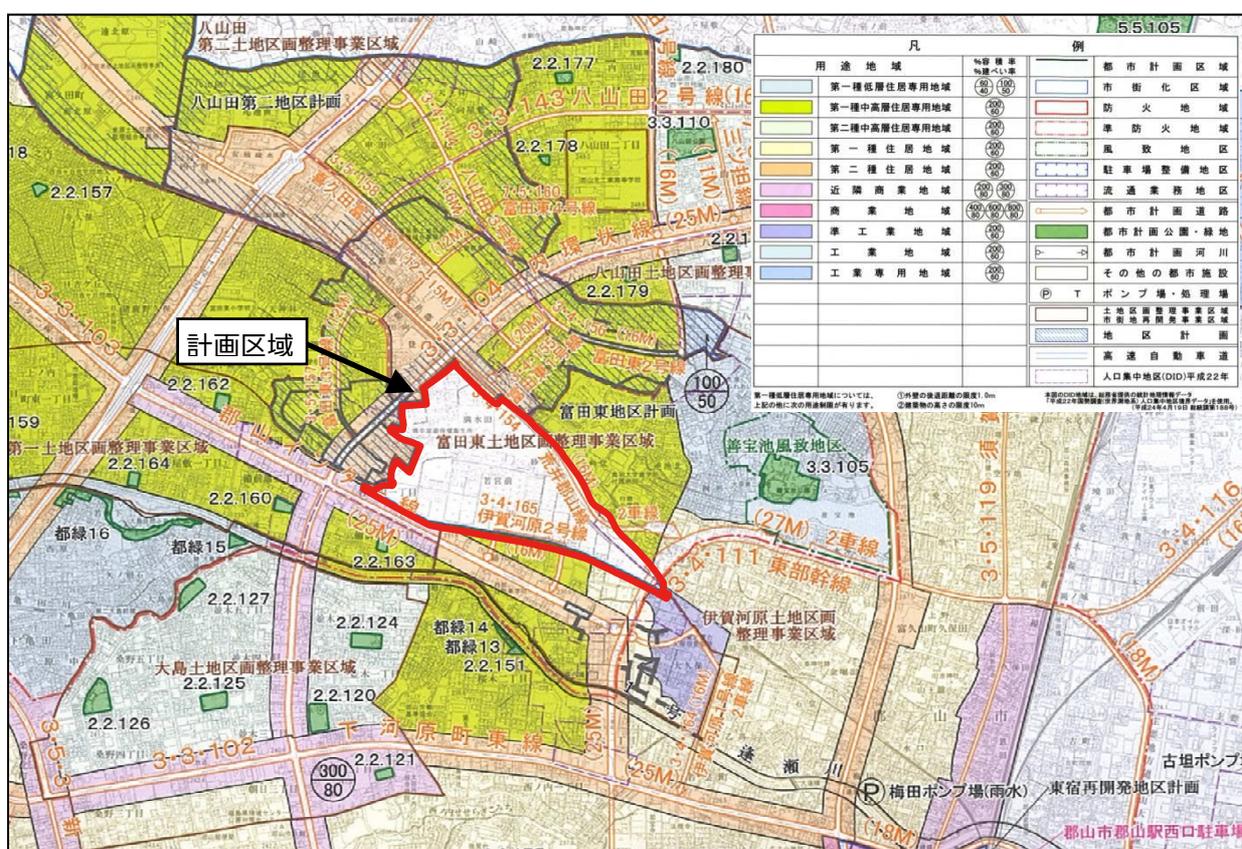
<こおりやま広域圏 医薬関連機関位置図(2019年11月)>



## 2. (仮称) メディカルヒルズ郡山基本構想 (概要)

市街化調整区域のため低未利用地となっている旧農業試験場跡地周辺地区（郡山市富田町若宮前 外地内）において、同地区内に立地する「ふくしま医療機器開発支援センター」を最大限に活用しながら、医療機器関連産業分野を中心とする新たな産業の集積拠点の形成を目指し、2015年度（平成27年度）に当該地における現況特性、産業用地としての適性条件、土地利用方針など多様な観点から検討を行い、「(仮称) メディカルヒルズ郡山基本構想（以下、「基本構想」とする）」を策定した。

### 【基本構想 計画区域図】



(資料：平成24年3月 郡山市都市計画図(平成18年～平成20年編集)

### 【地区の概要】

- ・計画区域面積 A=約 30ha（市街化区域に囲まれた市街化調整区域）
- ・区域のほとんどが農業振興地域に指定されているが、現状では区域東側のみ農地として利用されている。区域内には農用地区域の指定は無い。
- ・区域中央部を東西に横断する斜面林が、地域森林計画対象民有林に指定されている。
- ・区域内において、西側の区域を跨ぐ位置に埋蔵文化財包蔵地が存在する。
- ・区域北側に「JR 郡山富田駅」（2017年4月開業）、中心部に「ふくしま医療機器開発支援センター」（2016年11月開所）が立地しており、周辺を内環状線（W=25m）等の都市計画道路に囲まれている。

## 【まちづくりのテーマ】

人と医療の未来を創造する交流拠点 ～メディカルヒルズ郡山～

## 【まちづくり方針】

### ○世界に貢献する医療関連産業の集積地の形成

- ・「ふくしま医療機器開発支援センター」の立地を活かし、医療に関連する産業・研究・企業等の集積を図る

### ○集約型都市構造への転換を踏まえた都市利便施設の立地促進

- ・地区内及び周辺住宅地からの利便性を考慮し、交通結節点となる郡山富田駅前に、商業・業務機能や行政サービス機能の立地を図る

### ○持続可能なコミュニティを醸成する地区内外の人々の交流の場の創出

- ・地域住民や就業者等の様々な活動や交流を促進する場の創出を図る

### ○緑豊かな空間の維持・創出

- ・現況の斜面林等をできるだけ残し、地区内の緑豊かな原風景の保全を図る
- ・地区内外からの施設利用者の利便性を考慮し、地区中央部に既存の斜面林と一体となった公園を配置することにより、緑豊かな憩い空間の創出を図る

### ○鉄道・道路ネットワークの形成による交通利便性の確保

- ・広域アクセス性を考慮し、郡山インター線と郡山富田駅を結ぶとともに、内環状線とのアクセス強化を図る



【地区及び地区周辺の状況】



ふくしま医療機器開発支援センター



J R 磐越西線「郡山富田駅」



養鶏分場、県中家畜保健衛生所跡地



応急仮設住宅（撤去状況）



都市計画道路「内環状線」



都市計画道路「郡山インター線」



都市計画道路「東部幹線」（整備状況）

## (2) 本構想の位置付け

国の「日本再興戦略2016官民戦略プロジェクト」においては、健康産業の活性化と質の高い健康医療サービスによる「世界最先端の健康立国」を目指すこととしており、全国知事会においても、2018年に「健康立国の実現に向けた宣言」がなされている。

また、福島県においては「第二次健康ふくしま21計画」を推進するため、2019年3月に官民が連携した「健康長寿ふくしま会議」を発足させ、健康長寿県の実現に向けた取り組みを進めている。

なお、直近の動向として、2019年度の国の成長戦略実行計画において、「人生100年時代の安心基盤は「健康」である。」ことも示されている。

本市においても、2019年8月に「郡山市SDGs未来都市計画」を策定し、「健康」をキーワードとして医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保等を目標とした持続可能なまちづくりに向けた先導的取り組みを推進しており、ふくしま医療機器開発支援センターが立地する旧農業試験場跡地周辺地域に、医療関連産業の集積を目指す基本構想の推進も、国際競争力のある魅力的な産業振興を図り、「知の結節点」として持続可能な成長を目指す本市において、重要な役割を果たすものである。

当該地域は、JR磐越西線「郡山富田駅」、四方を囲む都市計画道路により交通利便性や開発ポテンシャルの高いエリアとなっており、さらに、ふくしま医療機器開発支援センターとの連携により、健康・医療等に関する取組みを進めるうえでの県内拠点となり得るとともに、「こおりやま広域圏」、さらには福島県の発展にも貢献する重要なエリアでもあることから、本基本構想を推進するために、2016年度に行政機関・医療関係団体・高等教育機関・金融機関等から構成する「郡山市医療機器関連産業集積懇談会（以下、「懇談会」とする）」を設け、構想の実現に向けた検討を行ってきた。

また、健康に対する国・県の動向や区域周辺の立地状況など、当エリアを取りまく環境は変化してきていることから、2016年3月に策定した基本構想をベースに、懇談会において出された、当該エリアにおけるまちづくりの方向性や求められる機能についての意見を踏まえ、基本構想を推進するにあたって必要な機能等について整理を行い、「メディカルヒルズ郡山基本構想2.0～『具体的な機能の考え方』～（以下、「基本構想2.0」とする）」として取りまとめた。

今後は、この基本構想2.0をもとに、民間活力の活用も含めた多様な土地利用が可能となるよう、福島県等の関係機関と協議調整を図っていく。

<「健康」に関する国・県の動向>

名称	内容
<p>日本再興戦略 2016 官民戦略プロジェクト (国) : 2016 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康産業の活性化と質の高い健康医療サービスによる「世界最先端の健康立国」を目指す</li> <li>ビッグデータ等の活用による診療支援・革新的創薬・医療機器開発</li> <li>IoT等の活用による個別化健康サービス、健康・予防に向けた保険外サービス</li> <li>ロボット・センサー等の技術を活用した介護の質・生産性能の向上</li> </ul>
<p>成長戦略実行計画 (国) : 2019 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生 100 年時代の安心基盤は「健康」であり、医療・介護については、全世代型社会保障の構築に向けた改革を進めていくことが必要</li> <li>予防・健康づくりは、全ての世代や地域の住民を対象に進めることが必要であり、このためには、個人の努力に加えて、個人を支える企業、保険者、地方公共団体等の役割が重要である</li> </ul>
<p>健康立国に向けた宣言 (全国知事会) : 2018 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の生活の質 (QOL) の向上を図りつつ、社会保障制度の持続可能性を高めるとともに、社会に活力をもたらす「健康立国」の実現に向けて、地方は「地方の責任」を果たす</li> <li>「健康立国」実現に向けたアクションプランに基づき、地方の先進・優良事例をお互いに共有し、幅広く横展開する取組を行う</li> </ul>
<p>第二次健康ふくしま 21 計画 (福島県) : 2013 年 (2019 年改定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国トップレベルの健康長寿県を目指す「健康寿命の延伸」と、県内地域間格差の縮小を目指す「健康格差の縮小」を柱とした「すこやか、いきいき、新生ふくしま」の創造を基本目標に掲げ、生活習慣病の発症予防や重症化予防、生活の質を向上させる取組めとともに、本県独自の取組として、東日本大震災及び原子力災害の影響に配慮した健康づくり体制の推進を展開する</li> <li>県民一人ひとりが実践する健康づくりを基本に、家庭・学校・職域・地域などが一体となった新たな健康づくり県民運動の展開、健康づくりへの社会的・専門的支援の計画的展開を図る</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>健康長寿ふくしま会議 : 2019 年 「第二次健康ふくしま 21 計画」を推進するとともに、各専門分野の団体等が食・運動・社会参加に視点を置いた健康づくりに共働で取組むことで、全国に誇れる健康長寿県の実現に寄与することを目的に設置</p> </div>

#### 4. 計画区域に求められる機能の整理

##### (1) 上位、関連計画の整理

基本構想策定において検討要素としていた上位・関連計画について、新たに「こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン」、「郡山市 SDGs 未来都市計画」、「こおりやま産業持続・発展ビジョン」、「郡山市まちづくり基本指針」、が策定され、同指針では、産業分野におけるまちづくりの方向性として、医療機器関連産業の集積を図ることとしている。

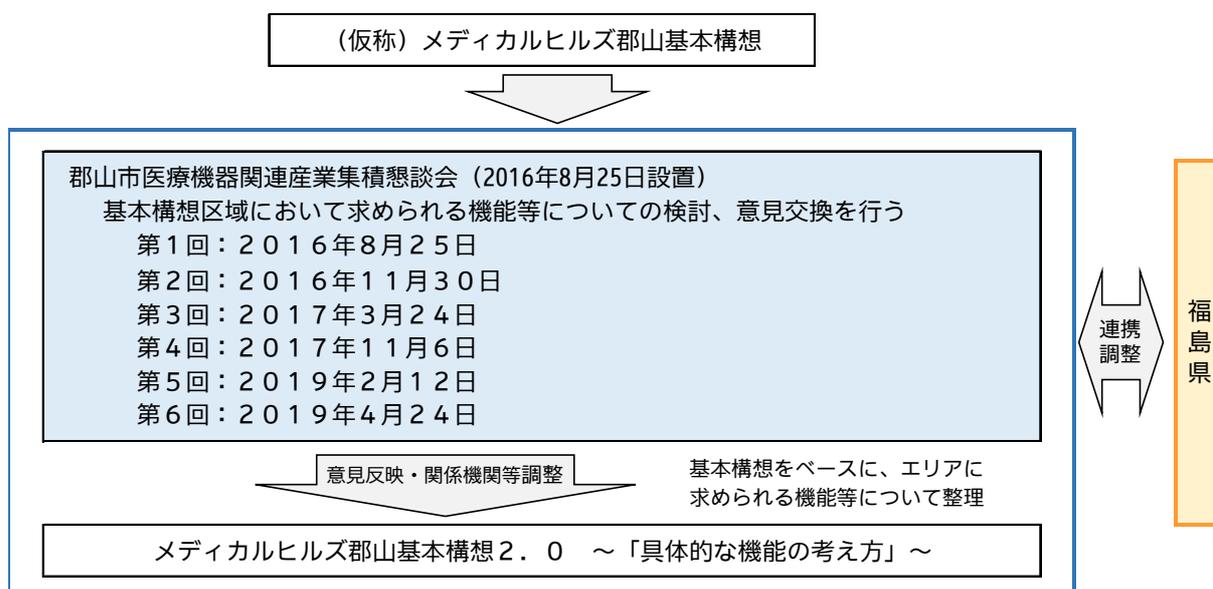
上位計画	求められる機能	
福島県総合計画「ふくしま新生プラン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸送用機器関連産業、医療機器産業など、経済波及効果が大きい産業分野の企業立地を推進</li> <li>・技術開発と生物学的安全性を総合的に評価するための、医療機器開発・安全性評価拠点の整備</li> <li>・医療機器分野等の研究拠点や関連産業の集積</li> <li>・医療機器分野などの産業集積や関連基盤技術の高度化・高付加価値化を図り、戦略的な企業誘致と雇用の創出を推進</li> </ul>	
福島県復興計画（第2次）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療福祉機器産業の集積</li> <li>・医療福祉機器産業の集積や創薬拠点の整備など、医療関連産業を振興</li> <li>・安全性評価を始めとして医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する拠点</li> <li>・産学官が一体となって医療機器の開発等に取り組み、医療関連産業を集積</li> </ul>	
こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様かつ高度な学術研究機関が集積する立地環境を活かし、IoTやAI等による産業のイノベーションを産学金官など関係機関が十分に連携し国際競争力の高い産業振興を推進する</li> <li>・広域的な医療体制のネットワーク構築や相互の医療資源の有効活用について展開する</li> <li>・こおりやま広域圏をけん引する高次都市機能の誘導や未利用地等の活用により、「こおりやま広域圏の玄関口」に相応しい良好な中心拠点の形成を図る</li> </ul>	医療機器開発拠点の整備と関連産業の集積
郡山市 SDGs 未来都市計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康」をキーワードに「経済」、「社会」、「環境」において、持続可能なまちづくりに向けた先導的取組である、オープンデータを活用した広域医療等の分析(EBPM)及びICTを活用した健康寿命延命対策(EBM)をステークスホルダーと連携し推進することで、医療・健康産業の集積、健康寿命延伸・医療費抑制、環境負荷の少ない快適な生活環境の確保等を図る</li> <li>・多様かつ高度な産業研究機能集積を活かし、こおりやま広域圏内の公・共・私の境界をこえた主体的な研究連携を促進するとともに、国際的な視野にも立った広域産業圏として更なる発展を目指す</li> <li>・産総研福島再生エネルギー研究所やふくしま医療機器開発支援センター、日本大学工学部等、産学金官の連携により、新事業・新産業の創出を図るとともに、共同研究等を推進し、地域企業の付加価値を高める</li> </ul>	

郡山市まちづくり基本指針	<ul style="list-style-type: none"> <li>産総研やふくしま医療機器開発支援センターの立地を契機とした、再生可能エネルギー分野や医療機器関連分野の集積が進展する本市産業の強みを活かした、本市に立地する大学や高等教育機関との産学官連携や、中小企業等の知的財産権利化及び活用</li> <li>産総研やふくしま医療機器開発支援センターなどが立地する本市の強みを活かし、再生可能エネルギーや医療機器関連産業の集積を図るとともに、それぞれのネットワークを活用した連携強化により「知の結節点」としてさらなる戦略的な企業誘致活動による本市経済のさらなる活性化と雇用創出</li> </ul>	医療機器開発拠点の整備と関連産業の集積
こおりやま産業持続・発展ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーや医療機器、RPA などに関連する新たな成長産業の育成・集積を目指し、産業クラスターの形成を促進するべく、戦略的な企業誘致と工業団地の環境整備を図る</li> <li>郡山地域研究機関ネットワーク会議などのネットワークを活用した連携強化による共同研究や技術の共有などを促進し、異業種間連携と技術革新による産業の高度化・高付加価値化を図る</li> </ul>	
郡山市都市計画マスタープラン2015	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福島県復興計画」に位置づけられる「産業の再生及び創出」に関する機能（医療福祉機器産業の集積や創薬拠点の整備など、医療関連産業の振興）を、積極的に立地誘導</li> <li>磐越西線新駅の計画に合わせて駅周辺地区において、新たな高付加価値産業等の機能集積など、成長産業分野の機能を誘致</li> <li>農業試験場跡地に「ふくしま医療機器開発支援センター」が整備されるとともに、磐越西線の新駅が設置されることから、これらを中核拠点とした、緑豊かな環境の中で、高付加価値産業の集積する新たな拠点としての土地利用</li> </ul>	医療機器開発拠点の整備と関連産業の集積
	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療関連産業の振興やこれと連携する機能の集積に向けて、ふくしま医療機器開発支援センター周辺を、交流推進拠点として新たに位置づけ</li> <li>ふくしま医療機器開発支援センターを核に、医療・福祉関連産業の一体的支援や医療機器の研究開発拠点として、新産業の集積による交流推進拠点を形成</li> <li>医療関連産業の一体的支援や医療機器の研究開発拠点</li> <li>周辺環境との調和に配慮しながら、研究拠点として企業の集積や、計画的な産業基盤の整備・充実</li> <li>ふくしま医療機器開発支援センターを中心に、関連する研究機関等の誘致を含め、駅前立地を活かした新たな交流推進拠点にふさわしい土地利用</li> </ul>	交流推進拠点の形成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地内における鉄道利便性の向上を目的に、郡山富田駅設置を進めるとともに、地区の交通結節点として駅前広場や周辺道路を整備</li> </ul>	交通結節点の形成

## (2) 懇談会において検討した機能等

### 【懇談会の位置付け】

懇談会については、医療機器関連団体、医療関係者、大学、金融機関、福島県、郡山市等が連携し、郡山市において、医療機器の安全性評価や医師・医療従事者向けの機器操作トレーニングなど、国内初となる総合的な支援機能を有する「ふくしま医療機器開発支援センター」を核とした医療機器関連産業の集積を図ることを目的として、2016年8月に設立され、同懇談会において基本構想区域におけるまちづくりの方向性や求められる機能等についての検討、意見交換を行った。



## 【意見交換】

懇談会では、エリアにおいて求められる機能、医療関連産業の分野の定義付けなどについて意見交換を行ったが、懇談会委員からは、

- “医療機器関連産業” は業種が広く、中小企業が多いため、医療関連産業の集積を図るためには、これらの企業が進出しやすい環境づくりが必要
- 大企業よりは中小企業、工場や倉庫よりは研究開発施設の集積を図り、医療機器開発支援センターとの連携や集積した企業同士の連携を図ることが必要

といった、“メディカルヒルズ郡山”として医療関連産業の集積を図るために必要なことについて様々な視点から数多くの意見をいただいた。

また、

- メディカルヒルズ郡山は様々な人が集まれる場所となって欲しい。若者に医療に興味を持ってもらえる場所、国内のみならず海外の人達が訪れるような場所としてもらいたい
- 大学・小中高等学校・病院など周辺に沢山ある環境であるから、これらの関係者も広く利用できるような想定で、医療の認知度が広がる仕組みづくりや地域の学校等との連携などにより、学術総合地域的な振興を目指して欲しい

といった“メディカルヒルズ郡山”が医療関連産業の集積だけでなく、まちとして機能するための、まちづくりの方向性や将来イメージに対する意見も多くいただいた。

### <懇談会での主な意見>

項目	懇談会意見（要約）
まちづくり (方向性) に関する こと	<p>○様々な人が集まれる場所、若者に医療に興味を持ってもらえる場所</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研究者だけでなく一般の人が集えるような仕掛けや、グローバルな視点も必要</li></ul> <p>○「メディカル」がイメージできる特徴のあるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・国内では、様々なところで医療機器を製造しているため、医療関連産業の集積地として、郡山＝メディカルとイメージできるような特徴を持たせて欲しい</li><li>・医療の認知度が広がる仕組みづくりや地域の学校等との連携などにより、学術総合地域的な振興を目指して欲しい</li></ul>

項目	懇談会意見（要約）
<p>必要な機能に関する こと</p>	<p>○医療関連産業の集積</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関連産業については、業種が広すぎるため、集積を図る業種として、「医療」、「ヘルスケア（健康維持、スポーツ、病気の予防・介護）」、「介護・医療福祉」の分野とする</li> <li>・貸工場や貸オフィスなど、中小企業が進出しやすい環境が必要</li> <li>・医療機器関連産業については業種が幅広く、中小企業が多い。大企業というよりは、中・小規模の企業の集積を図り、医療機器開発支援センターとの連携や企業同士の連携を図ることが必要</li> </ul> <p>○研究施設（企業、大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工場や倉庫については排除しないまでも、研究開発施設など優先度の高いものを分けた方が良く、研究開発施設等の方が優先度が高いと考える</li> </ul> <p>○コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の既存施設とは別に、小規模な学会等に対応できるものが必要</li> </ul> <p>○商業施設、業務施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅が隣接するメリットを考えると、商業エリアも必要と考える</li> <li>・地区内の企業等の従業員や駅利用者のための商業エリアも必要</li> </ul> <p>○宿泊施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究者向けの長期滞在型の宿泊施設や学会等の来訪者向けの宿泊施設が必要</li> </ul> <p>○地区内及び地域住民等の交流の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や小中高等学校、病院等が周辺に立地する環境を踏まえ、それらとの連携や一般市民が往来できるような仕組みや仕掛け、場の創出</li> </ul> <p>○地域住民や就業者等の憩いの空間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現況地形、自然を活かした緑豊かな憩い空間が必要</li> </ul> <p>○周辺幹線道路や郡山富田駅とのアクセス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスや電車については利便性が良いとは言えないので、公共交通の利便性の向上など、鉄道、バス、道路などでアクセスしやすい環境整備が必要</li> </ul>

## 5. 基本構想 2.0 における具体的な機能の考え方

### 【機能整理のポイント】

懇談会での意見交換内容や庁内関係課の打合せ内容を踏まえ、当該エリアに求められる機能について整理を行った。

機能を整理するに当たり、以下のポイントに留意して行うこととした。

- 医療関連産業の範囲が広すぎるため、ある程度分野の定義付けを行うこと
- 民間活力の活用も含めた多様な土地利用が可能となるように整理すること
- 市の事業計画との整合を図ること

### 【医療関連産業の分野の定義付け】

医療関連産業については、懇談会において、区域内にある「ふくしま医療機器開発支援センター」を最大限に活用しながら、医療機器関連産業分野を中心とする新たな産業の集積拠点の形成を図る、という観点での意見交換を踏まえ、以下の3つの分野とした。

- 「医療」
- 「ヘルスケア（健康維持、スポーツ、病気の予防）」
- 「介護・医療福祉」

### 【機能の整理】

基本構想における5つのまちづくり方針（方向性）については、医療関連産業の集積以外に、集約型都市構造への転換やコミュニティの醸成など、当該エリアにおけるまちづくりに必要な方向性の全てを網羅した内容となっているが、今後、基本構想を推進するにあたり、民間活力の活用も含めた多様な土地利用や市の事業計画の状況を踏まえ、基本構想に基づき整理したエリアに求められる機能については、それぞれに“重み”をつけることとした。

具体的には、エリアに求められる機能について、懇談会での意見交換内容や庁内関係課との打合せ内容、事業の実現性等を踏まえ、「備わるべき機能」、「備わることが望ましい機能」、「別途協議調整が必要な機能」に分けて整理を行った。

## 基本構想 2.0 における具体的な機能の考え方

### <コンセプト>

- ・医療関連の企業、「ふくしま医療機器開発支援センター」をはじめとする研究機関及び周辺に立地する学校・病院等との融合及び地域との連携により、多様な人々が集う高次学術産業の集積を図る
- ・集積した企業等と地域及び行政の連携による、災害に強いレジリエントで持続可能なまちづくりの推進

### <基本構想 2.0 において求められる機能>

基本構想		
まちづくり方針	方向性	求められる機能
世界に貢献する医療関連産業の集積地の形成	「ふくしま医療機器開発支援センター」の立地を活かし、医療に関連する産業・研究・企業等の集積を図る	<p><b>○医療関連産業集積機能</b></p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">医療関連産業について以下の分野とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「医療」</li> <li>● 「ヘルスケア（健康維持、スポーツ、病気の予防）」</li> <li>● 「介護・医療福祉」</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関連産業の集積 企業、貸オフィス、貸工場</li> <li>・研究機関（企業、大学）</li> <li>・「メディカル」に関する情報発信による国内外とのネットワーク形成</li> </ul>
集約型都市構造への転換を踏まえた都市利便施設の立地促進	地区内及び周辺住宅地からの利便性を考慮し、交通結節点となる郡山富田駅前に、商業・業務機能や行政サービス機能の立地を図る	<p><b>△商業・業務機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者や駅利用者向けの商業施設、業務施設</li> <li>・来訪者向けの宿泊施設</li> </ul> <p><b>△緑地・憩い空間機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の自然を活かした、地域住民や就業者等の憩いの空間</li> </ul> <p><b>△アクセス機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺幹線道路とのアクセス</li> </ul>
持続可能なコミュニティを醸成する地区内外の人々の交流の場の創出	地域住民や就業者等の様々な活動や交流を促進する場の創出を図る	<p><b>※業務機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンベンション施設</li> </ul> <p><b>※アクセス機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通との接続、利便性向上</li> </ul> <p><b>※交流促進機能</b></p> <p><b>※行政サービス機能</b></p> <p><b>※防災・減災機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・行政・企業等が一体となった災害への対応</li> </ul>
緑豊かな空間の維持・創出	<p>現況の斜面林等をできるだけ残し、地区内の緑豊かな原風景の保全を図る</p> <p>地区内外からの施設利用者の利便性を考慮し、地区中央部に既存の斜面林と一体となった公園を配置することにより、緑豊かな憩い空間の創出を図る</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これらの機能については、既存施設・計画との整合等が必要であるため、別途協議調整を行うものとする</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ ⇒ 備わるべき機能</p> <p>△ ⇒ 備わることが望ましい機能</p> <p>※ ⇒ 別途協議調整が必要な機能</p> </div>
鉄道・道路ネットワークの形成による交通利便性の確保	広域アクセス性を考慮し、郡山インター線と郡山富田駅を結ぶとともに、内環状線とのアクセス強化を図る	

SDGs 未来都市プロジェクト  
メディカルヒルズ郡山基本構想 2.0  
～「具体的な機能の考え方」～  
(2019 (令和元) 年11月)

■発行 郡山市  
■編集 郡山市産業観光部産業創出課  
〒963-8601  
福島県郡山市朝日一丁目23番7号  
TEL: 024-924-2271  
FAX: 024-925-4225